

Hello we are NVLU

飛び立とう、未来へ



- ◆刻んだ時を振り返る
～定年退職者メッセージ～
- ◆大きく羽ばたけ！ニチジュウ生！！
～担任の先生からのメッセージ～
- ◆Congratulations on the award
学長賞・同窓会長賞
日本獣医師会褒賞・樺賞
- ◆平成30年度学位記授与式
式辞・卒業生代表挨拶
- ◆nichistagram #旅立つあなたへ

3月に定年退職を迎える教職員2名と2018年度卒業生

吉村 格 (Itaru YOSHIMURA)

富士アニマルファーム 教授 牧場長



——先生は本学卒業後、パラグアイで仕事をされています。いきさつを教えてください。

「畜産のことをもっと勉強しなさい」と当時の学長から紹介され、パラグアイのイグアス農牧株式会社の現地社長と出会い、私も移住者として南米に向かいました。その後自営農を目指し、原始林を伐採し、住居を構え、畑を作り、畜舎を整え、病院もないところで3人の子供をなんとか育てていました。仕事に対するやりがいと生きていることの実感は十二分にもつことができた7年間でした。

しかしながら、当時のレガノミクスは開発途上国を経済的に窮屈させ、パラグアイにおいても仕事がなくなり、現地の人たちはお金欲しさにこれまで友好的だった日本人を襲い始めました。自衛のために銃をもつといった生活は私の平和ボケした精神をヘトヘトに疲弊させてしまいました。自分の家族やその安全を守るといった日本では普通のことがどんなに大変なことかという事がよく分かりました。

——その後、本学小野田牧場（宮城県）でお勤めになられた中で、特に印象深かった出来事を教えてください。

反対意見が多かった中で繁殖牝馬としてカロママ号を導入し、ナオキ号を種付けし、産まれたバイエル号が中央競馬で4勝しました。大学・教職員・学生の皆さん一緒に応援できたのは嬉しい思い出です。

——なるほど！カロママ号を導入したのはなぜですか？

当時の牧場長はウマ関係者の中では有名な内科学教授の本好茂一先生でした。私が学生時代に馬術部出身であったことから牧場実習で乗馬を取り入れ、それが軌道に乗ると「競走馬の生産もしたいね」ということになりました。たまたま馬術部で同期の高橋裕調教師から「良血の馬がいるから繁殖につかないか」という有り難い話があって「カロママ号」を繋留することになったわけです。

——その後、付属牧場が現在地（山梨県）へと移りましたが、移った当時はどうでしたか？

朽ちかけた牛舎しかありませんでしたが、法人や大学と話し合いながらセミナーハウス・臨床センター・搾乳牛舎・堆肥舎・研究棟などの建物を1つ1つ増やしていくのは仕事をしている充実感がありましたね。

——富士アニマルファームの建物の中で、一番建てるのが大変だった建物はなんですか？

今回竣工した新しい牛舎です。法人の経済的状況が大変厳しい中での予算の申請になりました。本当に有り難いことだと思っています。

【略歴】

- 1976年3月（22歳）日本獣医畜産大学獣医畜産学部畜産学科 卒業
- 1976年11月（23歳）イグアス農牧株式会社（パラグアイ共和国）入社
- 1979年1月（25歳）自営農として独立
- 1983年3月（29歳）パラグアイ国政情不安のため離農・帰国
- 1983年9月（29歳）日本獣医畜産大学付属牧場（小野田牧場）助手
- 1985年7月（31歳）牧場長補佐に併任
- 1991年4月（38歳）日本獣医畜産大学付属牧場（小野田牧場）講師
- 2004年4月（50歳）日本獣医畜産大学付属牧場（富士アニマルファーム）准教授
- 2012年4月（58歳）日本獣医生命科学大学付属牧場（富士アニマルファーム）教授
- 2014年4月（60歳）牧場長に併任
- 2019年3月（65歳）定年退職



——今まで教員冥利に尽きる！といったエピソードを教えてください。

牧場実習が終わって最後に学生代表がお礼の挨拶を述べる時、感極まって泣きながら「実習に参加してよかったです。ありがとうございました」という言葉を聞く度に、教員といふ仕事に携われたことに感謝しています。

最近、学会奨励賞を受賞されたM先生は毎週研究室の学生と来場されます。彼曰く「母校の大学よりも、農林水産省の研究所よりも、ココは実験が出来る」とのこと。それを聞いて定年退職前に自己肯定感に浸っています。

——退職後のこれから的人生設計や夢、目標を教えてください。

これから的人生は唯々糟糠の妻と飽きるほど一緒にいたいと私は願っているのですが…。

——素敵な目標ですね！奥様と行きたい場所、やりたいことはありますか？

これまで精神的に余裕がなくて落ち着いて家内に尽くすことが出来ませんでした。ゆっくりと家で食事をし、のんびりとご近所を散歩し、図書館に行ったり、体育館に行ったりして二人で楽しみたいと想像を膨らませていたのですが、現場の責任者を育てるまで嘱託の牧場長として残ることになりました。楽しみは暫くお預けです。

——最後に、学生や教職員にメッセージをお願いします。

私に「自分らしく生きよ」と導いてくれたsomethinggreatの存在と私の身近にいていつも影響を与えてくれた本学教職員・学生の皆さんに心から感謝を申し上げます。長い間大変お世話になりました。

ありがとうございました。



定年退職者メッセージ 刻んだ時を振り返る

これまでニチジュウの教育活動に尽くされた教職員のお二人に、印象に残っている出来事、そしてこれからやってみたいことなどなど…たくさんお話を聞いてきました！
長い間支えてください、本当にありがとうございました。



——本学でお勤めになられた中で特に印象深かった出来事を教えてください。

法人の勤続は40年になりますが、そのうち本学の勤務は通算11年です。特に若い頃（30代）の教務課時代の出来事が印象深く思い出されます。まずは、1991年に大学設置基準の大綱化や自己点検・評価システムの必要性が高まり、大学の在り方が大きく変わったことです。これによって、1993年、本学初の自己点検評価書「日本獣医畜産大学現状と課題1988-1992」の作成に教務課員として携わりました。そうそう、同じくこの頃、本学初の「Syllabus」（授業計画）を初めて作成したことも思い出します。

——本学初のシラバスと一緒に本学の歴史もあわせて作られましたね（笑）
キャンパスについての印象はいかがですか？

1993年7月に私の郷里、宮城県にあった小野田牧場が山梨県上九一色村（現在の富士河口湖町）富士ヶ嶺に移転して、富士アニマルファーム・富士セミナーハウスを竣工したことでも印象深い出来事でした。また、第一校舎のキャンパスが木造校舎から近代建築に劇的に変貌を遂げたことも驚きです。

——教職員や学生との思い出はそれはたくさんあると思います。一つずつ教えてください。

28年前の第7回オーストラリア実習に学生63名と参加したのも、なかなか楽しかったですよ。学生を知る良い機会にもなりましたね。

最近ですと学長のリーダーシップのもと教職協働で行われた、本学の中長期計画「ニチジュウミライ図」の策定プロジェクトへの参画も大きな仕事でした。

——退職された後のこれから的人生設計や夢、目標を教えてください。

定年退職後の再雇用制度による継続雇用を希望しています。「ニチジュウミライ図」第1期中長期計画（2021年；創立140周年まで）の実行・実現が当面の目標ですね。

それからは、日本の歴史を勉強したいと思っています。そして、日本国内を歴史探訪の旅をしたいと思っています。

東京オリンピック・パラリンピックの開催も楽しみです。

——歴史探訪の旅！ロマンを感じます。最後に、学生や教職員にメッセージをお願いします。

学校法人日本医科大学の事務職員として社会人となって以来40年、そのうち本学では通算11年の勤務になります。

この間、多くの教職員、学生の皆様より長きにわたりご指導ご支援を戴きましたこと、心より感謝申し上げます。日本獣医生命科学大学は、個性と特長を有する有為のブランド大学です。ステーキホールダーは、自信と誇りをもって更なるブランド力を高める努力を続けてほしいと思います。教職協働で構築した、中長期計画ニチジュウミライ図の実行・実現こそが本学の成長であり発展につながると確信します。

ありがとうございました。

渥美 照夫 (Teruo ATSUMI)

事務部部長



自身の時間を大事にして、コツコツ積み上げ、努力するタイプだった皆さん。自分のやりたいことを明確に持っていて、資格や免許の取得にチャレンジする意識がありましたね。また例年そうですが、研究室のまとまりがとてもよかったですのが印象的です。

入学直後のオリエンテーション時に比べ、自立的な活動ができるようになります。4年間、動物科学科での講義、実習、卒業研究を経て、成長した学生が多かったと感じます。

これから社会で求められることは「あなたが好きなこと」ではなく、「あなたにできること」です。そして創造力です。勇気をもって進んで下さい。そして、本学科で学んだことを生かして、社会で活躍してくれることを期待します。

5年次のCBT・OSCEなどの獣医学コアカリキュラムが本学で最初に導入された学年ということもあり、先輩たちは違った教育体制で学修した皆さん。単位取得や進級判定の水準が高まり、危機感やストレスを感じる機会も多かったと思います。一方で、そういった難問をくぐり抜けた学生たちですので、今後社会へ出ても獣医師として十分な能力が育まれたのではないかでしょうか。また、6年制であるので、年齢だけでなく、精神的にも大きく成長しましたね。希望の獣医学科に入学して夢に胸を膨らませていた1年次と比較すると、多くの学生は在学中に成人となり、また、獣医学や生命に携わることの奥の深さや、責任の大きさを痛感し、それを自分の人生に取り込んで勉学や研究・就職活動などを通じて社会人・獣医師としての自覚を持てるようになりました。

月並みな表現ですが、皆さんはいま本学を巢立ち、晴れて新しい道を歩んでゆくわけです。卒業をさかにに、皆さん的生活は(巨視的にみれば人生)は同窓生のそれとはそれぞれ違ったものへと早急に変化していくと思います。



社会人・獣医師・大学院生としての責務や、そこに求められる知識や技術、組織内での能力の發揮のしかたは皆さんの選ばれた進路に応じて全く違うと思いますが、責任を持ってより実質的に社会に関わることは、学部生の時とは違ったやりがいを得るに違いありません。卒業後に生活や環境の大きな変化の中で、時に悩むこともあるでしょう。もし、従事していることへのやりがいを見失ってしまった、行き詰った時には、ぜひ同級生に会い、本学にふたたび足を運んでください。きっと、今とは違った価値観で教員や同窓生と話すことができると思いますし、過去の自分を振り返ることは、きっと新しい自分を見つける手がかりになります。1年次からの6年間を通じてのわたくし達の行ってきた教育はすべて、今の、そしてこれからの方々のためのものですから、卒業生に会うのは教職員としてとても嬉しいことです。

Congratulations on the award

学長賞

在学期間を通じて学業成績が特に優秀で、かつ人物にも優れた者、各学科1名に与えられます。



獣医学科
柴 舞華さん



獣医保健看護学科
赤堀 由起恵さん



動物科学科
市川 みのりさん



食品科学科
眞弓 佳奈子さん



獣医保健看護学科



後輩とコミュニケーションをとったり、バイトや学外活動に勤しんだり、研究分野選びや就職活動を通して自分が何をしたいのかなどを見つめ直したり…基礎体力や人間力がついて顔つきなども変わっていました。

これからは獣医療技術の知識と技術を活かし、あるいは大学での経験を生かして社会に貢献して欲しいです。社会で求められる実践的な活動は決して楽なものではありませんし、責任も生じます。けれど、基礎体力は身につけたと信じて「自分だからできること」を武器に、あるいは社会にでてもそれらを増やして活躍して欲しいと思います。また、勉学以外でも大学で得た物は多いと思います。特に、友人や先輩、後輩、あるいは教職員などとのつながりは、専門性の高い大学。学科ならではのつながりに変わっていくと思いますので、是非とも大切にして欲しいと思います。

最後に。ヒトとヒトの関係、ヒトと動物の関係もさまざまあります。「いのち」に触れる看護や保健も、大変奥深く経験していくことが多いでしょう。世界は広く、まだ知らないことが多いです。教科書やネット情報だけではない「学ぶ」という気持ちを大切に、仕事であれ生活であれ、いろいろと経験し、たくさん楽しみながら、自分が選択した道をじんじんと突き進んで欲しいと思います。公私共に沢山のことを見てください。



食品科学科

ご卒業おめでとうございます！

皆さんの学年は真面目に取り組む学生が多いように感じていました。担当する授業での定期試験の成績もいつも得点が非常に高かったので、よく勉強されていたのだと思います。また、人懐っこい学生も多くお土産をくれたり、小テストに人生相談を書いてくる学生が複数名がいたのも印象深いです(笑)

これから社会に出て、皆さん一人一人の力が大きく発揮されることだと思います。良いことも悪いことも色々なことが有ると思いますが、幸せをつかんで下さい。幸せの形は人それぞれですので、自分にとっての幸せを見つけ、つかんで欲しいと思います。

この大学を卒業されても、人の縁は続きます。人の縁を大事にしてくださいね。そして素敵な夢を叶えてください。

同窓会長賞

同窓会より、各学科の専門性を活かした分野に進み、かつ、成績も優秀で、後進の模範となつた者に与えられます。



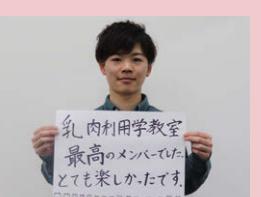
獣医学科
矢野 健人さん



獣医保健看護学科
山下 詠里さん



動物科学科
西尾 直也さん



食品科学科
新井 純平さん

公益社団法人日本獣医師会褒賞

公益社団法人日本獣医師会より、獣医学教育振興の一助として獣医学系大学獣医学科を優秀な成績で卒業する者に与えられます。



獣医学科
伏居 南美さん

権賞

課外活動及び学術・研究活動、あるいはボランティア活動において特に優れた成果もしくは、社会の模範となるような行為を行つた個人または団体に与えられます。今回は、学会での発表や論文雑誌投稿をはじめとした研究活動における功績が評価されました。



獣医学科
窪田 理恵さん

各賞受賞者に大学生活の思い出や教員、友人へのメッセージをいただきました！

受賞者の皆さん、本当にありがとうございました！

平成30年度学位記授与式 卒業生代表挨拶



長く続いた冬の寒さもようやく遠のき、うららかな春の到来を迎えるました。本日は、私たち卒業生のためにこのような盛大な式典をご用意くださいり、誠にありがとうございます。ご臨席を賜りました阿久澤学長はじめ、ご多忙にも関わらずご出席下さった坂本理事長、先生方、並びに、ご来賓の皆様に、卒業生一同心より感謝申し上げます。

私たちは、獣医学科、獣医保健看護学科、動物学科、食品学科のそれぞれの分野で生命や食について、科学的な視点から6年間または4年間学んでまいりました。私にとって大学生活は、これまでの高校生活までとは違い、想像以上に自己管理や計画性、自主性が求められるものでした。卒業を迎える今、4年間を振り返ると、講義や実習、学外実習、研究室、卒業論文など忙しくも、苦楽を分かち合った素晴らしい友人達と出会い、お互いに切磋琢磨しながら、自由に思考する豊かで濃密な時間を過ごすことが出来たと実感しております。

本日この場で挨拶をさせて頂くこととなり、学生生活で印象に残ったことを改めて思い返してみると、学外での実践的な実習やクラブ活動、研究室、外部の研究機関での2年間が特に印象的だったと思います。

夏期休暇を利用して参加した農場実習や牧場、養鶏場での学外実習では、どこか遠い存在のように感じていた産業動物の温かみを感じ、人と動物の繋がりを意識すると同時に産業動物としてのシビアな現実を学びました。それらの経験から、防疫、公衆衛生の分野で人と動物に関わる研究や仕事に就きたいと思い、免疫学・微生物学の勉学に励みました。

3年次からは、動物生体防御学教室に所属し、先生、先輩方のご指導のもと、より専門的な分野の知識を追求し、技術の習得に邁進しました。大学3年の後半で進路に悩んでいた時、先生方の後押しで、外部の研究施設で牛白血病に関わる卒論研究の機会を頂きました。世界と競争する日本の最先端の環境に身を置いて企業の方や海外の方と関わり、まだまだ未熟ですが研究者として大きく成長したと感じております。時には挫折や失敗を経験しましたが、それらは私に前に進む力と知識を与え、将来への限りない可能性を広げてくれました。

本日、日本獣医生命科学大学を卒業する私たちは、社会に出る者、進学する者、さまざまなかたちで各々が決めた道を歩んでいきます。その先では、実社会のありとあらゆる問題に直面し、翻弄され、自らの立ち位置を見失うこともあるでしょう。そのような時は、本学で学んだ事が必ず役に立ち、各々の未来を切り開いていく力となると考えています。それらの原動力を与えてくれた本学の卒業生として、生命への慈しみ、謙譲や協調性を意味する「敬讓相和」の精神のもと、日本のために、ひいては世界のために大きく貢献できるよう精進してまいります。

最後になりましたが、私たちが充実した大学生活を無事に過ごすことができたのは、阿久澤学長を始め、専門家としての心得を教えてくださった先生方、学生生活を支援してくださいました職員の皆様方、実習などで貴重な知見を与えてくれた動物たち、そして、経済的にも精神的にも支えてくれた家族に重ねて心より感謝申し上げます。日本獣医生命科学大学、および獣医学、生命科学分野の更なる発展を願い、卒業生代表挨拶とさせて頂きます。

平成31年3月14日
卒業生代表 応用生命科学部動物科学科
市川みのり

◀市川みのりさん(写真右)

平成30年度学位記授与式 式辞

本日ここに皆さんをお迎えし、日本獣医生命科学大学、学位記授与式を挙行できますことは、本学にとって大きな喜びであります。ただ今、大学院課程修了生21名、博士論文審査合格者2名、学部卒業生353名の皆さんに、学位記をお渡しいたしました。おめでとうございます。学びへの取り組みが、学位記の授与に至ったものであり、皆さんの努力に敬意を表します。教職員一同、心からお祝いを申し上げます。

そして、学校法人日本医科大学坂本理事長はじめ、多くの御来賓の皆様にご臨席を賜り、誠に有難うございます。

皆さんは、日本獣医生命科学大学を選び、学び、様々な経験を積み上げ、専門の知識を身につけてこられました。大学生活の時期は、心身共に大きくステップアップし、一人一人が、自分自身の内面の成長を感じておられることだと思います。また、先生方の熏陶、事務職員の温かい支援、学友たちと過ごした数々の思い出を胸に抱きながら、この席に座っておられることだと思います。

卒業を迎えた今、振り返ってみて、入学の時、抱いていた夢や期待、そして学生生活を送る中で新たに芽生えた目標をどの程度実現できたでしょうか。これからも、夢や目標を持ち続けるとともに、自分の内面を考える時間を持ってほしいと願っています。それは、自分が原点に立ち返ることができたり、自分の新たな力や考えの変化に気づけたり、自分を冷静に見る機会となります。人は人によって大きく伸びたり、落ち込んだりする精神性の強い生き物です。メンタルの潤滑油となり進むべき方向性を示してくれる特効薬が、気持ちのゆとりだと考えています。例えば、どうすれば自分は自分の力を最大限に発揮できるのか、それは、一人でできるのか、誰かの力が必要なのか、いろいろ自問自答してみることです。これからは、一層AIの力も必要でしょう。しかし、社会を構成しているのは言うまでもなく人間です。人やロボットがどんなに専門性の高い知識や技術力があっても一人でしているわけではなく常に多くの人がそこに繋がっています。皆さんは、社会人としてはスタートラインですので、学ぶことから始まるることは言うまでもありませんが、自分の考えるイメージを伝えることは、大切であり、そのためには、相手をよく理解しようとする心の間口を広く持つていなければなりません。社会経験を積みながら構築される自分の個性を生かしながら、自分ならではの仕事への取組みや人との関係性を考え続けてほしいと願っております。

また、これから先は、自ら決めない限り卒業はありません。社会を構成する社会人になるわけで、仕事だけではなく、公共性のある活動にも心を向けてほしいと思います。このところ予期せず続く災害に際して人の無力を思い知らされる反面、自分の持っている力を一人のものとせず、みんなのために使うという気持ちで繋がっている人たちの大きな力にも頭が下がりました。仕事での社会貢献とともに、一人の人間として社会を支える「市民」になってください。「今、必要とされていることは何か」「今、自分にできる時間はあるか」など考慮しつつ、好奇心と関心を持ち、行動することができる本学卒業生であってほしいと切に願っております。

ご家族・保護者の皆様には、この日を心待ちにしてこられたことと存じます。皆様の本学へのご支援に心から感謝するとともに、お慶びを申し上げます。

学生の皆さんは、いつも誰かに支えられ、励まされてきたことを心に留めてほしいと思います。この機会に、是非、感謝の気持ちを言葉で表現してほしいと思います。「ありがとう」は温かさのある言葉であり、人間関係の土台になる言葉だと思います。

結びになりますが、日本獣医生命科学大学は、皆さんが勉学や仕事上でのアドバイスを必要としているときには、学部・大学院の壁を越え、協力を惜しません。また在校生のために社会の多様な風を大学に送り込んでください。そして、近くに来られることができれば、先生や研究室を訪ねてください。歓迎いたします。社会人同士としての語らいを大いに楽しみましょう。母校となる、日本獣医生命科学大学で学んだことを誇りとし、希望に満ちた未来社会を、切り開いていく推進役として、成長されますことを心から祈念して、式辞の結びといたします。

本日は、誠におめでとうございます。

平成31年3月14日
日本獣医生命科学大学長

阿久澤 良造



nichistagram

#旅立つあなたへ

Related Hashtags : #卒業生の皆様 #ご卒業おめでとうございます #たまには遊びに来てね #20190314

 hippo_nvlu



❤️ 💬 ✈️ #我らが #さしみん #so cool
圧倒的センスとスキルでHIPPO男子を引っ張ってくれました！卒業おめでとうございます！！

 gmtm_55723



❤️ 💬 ✈️ #裏ボスまみさん #ぐろさんはあと2年
個性豊かすぎるメンバーでたくさんの場を盛り上げてくれました！卒業おめでとうございます✿

 sangyo-rinsho



❤️ 💬 ✈️ #追いコン #国試も無事終了
#春からそれぞれの道を歩みます
ご卒業おめでとうございます！
これからも活躍を楽しみにしています！！

 jimu_nvlu



❤️ 💬 ✈️ #事務部 #感謝
長年私たちを支えてくださいました。
これからの人生が素敵なものでありますように！